

令和5年度 県中国研 第1回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和5年6月7日（水）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 会長挨拶 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)
- 2 令和5年度の活動の方向
 - ① 令和5年度の活動に関して (不破中 小宅 陽久 主務)
 - ② 令和6年度美濃地区大会について (美濃大会実行委員長 高鷲中 永井 伸幸 先生)
 - ③ 令和5年度の研究の方向
 - 全体研究構想・令和5年度の研究について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)
 - 話す聞く研究構想 (上石津中 片山 博寿 話す・聞く部長)
 - 書くこと研究構想 (東可児中 梅田 佳宏 書くこと部長)
 - 読むこと研究構想 (東中 山田 優貴 読むこと部長)
 - 言語文化研究構想 (蘇原中 河合 のぞみ 言語文化部長)
 - 「ぎふこくご賞」の応募・結果に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
 - ④ 各地区の代議員について (白鳥中 上村 光一 総務部長)
 - ⑤ 会計部、広報部、情報部、編集部から
 - 会計収支決算・予算について (笠松中 原 博一 会計部長)
 - 情報部の活動について (北中 和田 光平 情報部長)
 - 機関紙「ぎふこくご」について (下呂中 上條 亘 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜県教育委員会 義務教育課 加藤尚子 課長補佐
- 4 おわりの言葉 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)

令和5年度 研究部各部会

日時：令和5年6月7日（水）16：00～16：30

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長
話す・聞く 片山 博寿
書く 梅田 佳宏
読む 山田 優貴
言語文化 河合 のぞみ

- 1 自己紹介
- 2 令和5年度の研究について
 - ・研究部各部会では、飛騨大会のまとめをもとに、美濃大会に向けてどのような方向で研究を進めていくかを、「令和5年度研究構想」をもとに話し合う会にする。
 - ・研究全体の方向性を踏まえ、令和5年度はどのように研究を進め、年度末に向けて何を作成していくのかを明確にしたうえで研究部各部会を行う。
 - ・各部会の成果物については中国研ホームページにアップしていく。(終了後、部会ごとに解散)

岐阜県中国研 令和5年度の活動について

垂井町立不破中学校 小宅陽久

新型コロナを乗り越え、新しい県大会の在り方を考える

令和3年10月22日に実施された「岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨大会」。(以降略 飛騨大会) 飛騨地区の先生方のお力添えを頂き、初のオンライン開催による中国研の県大会を実施いたしました(図1・図2)。

この飛騨大会を土台とし、2024年度に実施される「美濃大会」に向けて、昨年度は、大きく2回の準備会を実施しました。1回目の会は、8月19日に実施しました「中国研夏季ゼミナール」(図3)です。この会のキーワードは、「飛騨大会の歩みを知る」「2024年度実施の美濃大会における新しい県大会のあり方を考える」でした。この会では、大きく2つのことを行いました。

- ・飛騨大会をご覧になることができなかった先生方に、もう一度飛騨地区の発表を見て頂く機会とすること。
- ・実際の発表をご覧頂いた上で、2024年度に実施される美濃大会は、どのような会のもち方をするとよいかのご意見を頂くこと。

また、この会へは美濃地区の関市・美濃市・郡上郡の先生方をはじめ、羽島市・羽島郡・本巣郡・多治見市の計33校・合計81名の参加希望を頂きました。ここに、中国研本部役員・県中国研研究部員・分科会発表者の46名を加えた、合計127名で実施いたしました。

参加者の方に次回の県大会にねがうことを伺ったものをまとめたのが次ページです。

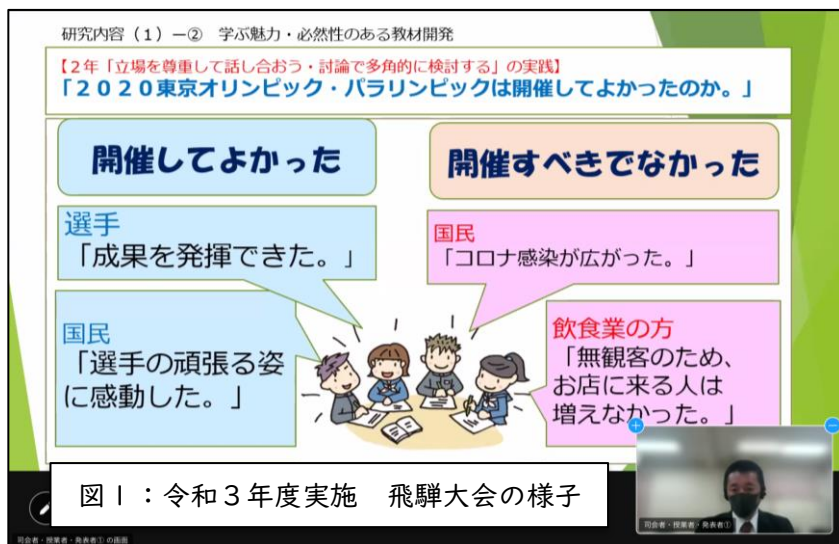


図1：令和3年度実施 飛騨大会の様子



図2：令和3年度実施 飛騨大会の様子



図3：8月19日夏季ゼミナールの様子

アンケートフォームでお寄せいただいた、先生方のご意見（抜粋）

もち方	感想・ご意見
参集型	○授業は現場で見たい。行けないとしても配信などで様子を全て見たい気持ちはある。 ○オンラインによる授業は、本校の全研やいくつかの研究会を通し、非常に厳しいと考えている。それまでの打ち合わせや会議はオンラインでもよいが授業は参観できるようにしたい。 ○限定公開やパスワード付きなど、肖像権や不正利用対策を行った上でのことになるが、やはり提案授業を観られるといいと思う。大会自体はオンライン開催で良いと思うので、事前に授業動画を見たり、後日見られるようにしたりということにすれば、見るも見ないも自由になるかなと思う。
ハイブリッド型	○できれば、実際に参観したいが、遠方の場合オンラインによる参加も選択できるとよい。 ○授業については、「実際に見たい」という意見もあったので、全員でなくとも実際に授業を見られるといいと思う。割り振りは難しいが、実際に見る人、オンラインで見る人というふうに分けるといいのかなと思う。 ○個人的にはオンラインと対面の両方での授業が良いが、無理なら飛騨大会同様にオンライン配信だけで良いのではないかな。
オンライン型	○今回のようにオンライン開催がいいと思う。 ○オンラインで行うとともに、可能ならアーカイブ化して多くの若い先生方にも勉強する機会をもちやすくしたい。現場では、これまで以上に若手教員への負担が大きく、学校を離れることはより難しくなっているため。 ○次回もオンライン開催でよいと思う。内容としては、今回の領域をまたがった評価については今後もどの学校でも研究が進んでいくと思う。今後はICTを活用した授業は必須だと思う。 ○オンライン開催は参加者としては手軽だが、一番ご尽力下さるのは美濃地区の先生であり、頑張る生徒たちもいると思うので、その方たちのよい方法でやっていけたらいいと思う。 ○コロナの状況的に、大勢による対面が難しい場合は、やはりオンラインだと思います。オンラインの場合、生徒の変容を探るために提案が二つ。 ①単元での変容を見るため、同一生徒の単元前、本時、単元後の振り返りがみたい。 ②本時の少人数交流の動画（音声のみでも良いかと）を一部。 （肖像権など難しい場合もあるが。）美濃大会に向けて宜しくお願いします。 ○授業公開について、授業公開はあると良いが、LIVE 配信は難しいと思う。また、その場で参観するのも、現実的ではないような気もする。あらかじめ授業を行い、撮影したものをオンラインで流すのはどうか。テレビ番組でドキュメントされるような感じで、編集したものを配信してもらえると、とてもよくわかるのではないかなと思う。労力がかかりすぎるので、難しいと思うが、勝手なことを言って申し訳ありません。本日もとても勉強になりました。

8月19日の美濃大会準備会で話題になったこと

	話題になったこと	現段階のとらえ
県大会を行う意義	☐ まず県大会をなぜ行うのかというねらいを見直す必要があるのではないかと（働き方改革や、教員減の側面でも）	☐ 各市町に市教研があるのだから、県大会をきっかけにして、市教研のレベルが上がり、この市教研の実践の積み重ね（授業のビデオを編集したもの等）を発表できるようなものであれば、県大会を地区ごとに行なっていく意義があるのではないかと市教研の歩みを発表できるようなものにしてはどうか？
会のもち方について	☐ 授業を見たいという希望は多いが、実践発表や研究構想は十分オンラインでも伝えることができる。 ☐ そもそも県大会当日に授業を公開する必要があるのか？実践発表に授業の一部を入れることで十分でないか？（コロナの関係で学級閉鎖・人数制限・派遣依頼の中止など、変更があればあるほど運営は困難）	☐ 授業を見たいというニーズは確かにある。でも、それが県大会当日でなくても良い。例えば、どんな状況でも、「〇月〇日に授業をする」と決めてしまい、生徒が目の前にいる以上、授業はする。授業を見たい人は、その日に行くという方法はどうか。県大会はその授業実践を含めてまとめたものをオンラインで見せる。そうすることで、県大会当日の会のもち方がコロナによって変動しない。 ☐ 美濃市区の各市町の市教研の情報を公開し、希望者がその授業を見に行くことができる仕組みを作るのも一案である。
研究について	☐ 言語文化部会の語彙に関わる分野はやはり実践するとなると難しさを感じた。指導要領の改訂含めて、一度見直してはどうか？	☐ 河合言語文化部長も、「古典に絞って実践したい」という意向を聞いている。その方向で11月の会で共通理解をしてはどうか？
県と美濃の接続	☐ 県の研究をどのように、美濃地区の先生方にお伝えしていくのか？ ☐ 美濃大会の時に、県の研究部員はどのように関わっていくのか？	◆次ページ参照
美濃大会以後	☐ 教員減や地区による教員の人数の差もある。美濃大会はすでに動き出しているので、その方向でやっていくが、美濃大会以後、地区での持ち回りの形を見直してはどうか？ ☐ 言語文化部会の語彙の部分にも関わるが、全国大会で6つの部会で研究をし、その後現行の4部会となったが、この4つの部会という研究母体を美濃大会以後、見直してもよいかもしれない。	☐ 例えば、美濃大会以後、県の研究部員と研究部長が、何年かに1回、県大会で、研究実践を発表していくような会にしていくのも一案である。 ☐ 美濃大会以後、地区でもちまわりをしている県大会のあり方を検討する。

11月17日の美濃大会準備会で確認した「新しい県大会の方向」

いただいたご意見をもとに、関市立富野中学校において、どのような県大会めざすのかを考える「県中国研美濃大会準備会」を、昨年度11月17日に、ハイブリッド式で実施しました。そこで話題になったのは、前述した夏季ゼミナールで伺った下記のご意見です。

市教研をうまく活用し、
その成果を県大会につなげて頂きたいです。

ここで考えたのは、「今度、市教研があるのだけれど、この單元どうするといい？」を聞きやすくなるような仕組みづくりです。

県中国研には、優れた授業実践や経験をおもちの先生が所属して下さっている「研究部」があります。

美濃大会に向けて実践される市教研の指導案検討をその研究部が担うことになれば、岐阜県規模の教科部会になるのではないかと考えました。現段階のイメージは、次のようになっています。



図5：美濃大会準備委員会の様子

【令和5年度のイメージ】

①授業の原案作成

授業者が勤務校の国語科の先生や、美濃地区の領域部長や美濃地区の研究部員と授業づくりを相談

②相談の希望があれば、授業者が美濃領域部長に連絡

授業者の方から相談希望があれば、連絡

③授業づくり相談

- ・授業者
- ・美濃地区領域代表者（美濃地区領域部長）
- ・県の領域部長

で授業づくりの相談

負担を減らすためにリモートで実施

④希望があれば、県の研究部で指導案検討会を実施

移動負担を減らすためにリモートで実施

⑤市教研の授業

希望があれば、県の領域部長・県の研究部員に派遣依頼を出し、授業や研究会に参加

2024年実施の「美濃大会」に向けての動き

(5月総会で提案済み・赤字部分が、本年度実施したものや、来年度に向けての重点)

①今後の大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	2021	→	2024	→	2027
東濃	間3年	可茂	間2年	鉦(岐阜)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃

★地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。(研究大会運営に関する規程より)

※現段階では、このような見通ししているが、上記の原則に基づき、2024 実施の美濃大会以後、地区ごとに持ち回りをしているこの県大会の方式の見直しをする。(働き方改革の側面より)

② 令和4年度の活動報告

(1) 引き継ぎについて(令和4年度8月19日に実施済)

コロナ禍においても飛騨大会を初のオンライン開催という形で実施して頂けたノウハウを、確実に次回大会の実行委員に引き継ぎができるように、日枝中学校 熊崎先生、北陵中 中西史子校長先生にサポートを頂いて引き継ぎを行えるようにした。

(2) 美濃大会の実行委員長・実行委員について

美濃大会実行委員長 永井伸幸 副会長(美濃)

美濃大会実行委員 **令和5年度に決定予定**

(3) 飛騨大会を美濃大会につなげる その1(2月の総会で、実践発表者の方の発表)

(令和4年度8月19日に実施済)

2月2日の研究部総会では、飛騨大会の実践発表者に、各部会で、実践発表をして頂いた。

飛騨大会当日に都合で見ることができなかった方もいらっしゃることも想定されることと、来年度以降、この追実践を行う際の留意点や、オンラインでこういった県大会を行う際に、どのような発表を目指していくのかのご意見を頂くような研究部総会となった。

(4) 飛騨大会を美濃大会につなげる その2(令和4年度 夏季ゼミにおける実践発表者の方の発表)

(令和4年度8月19日に実施済)

上記の2月総会で頂いた意見を元にして、来年度の夏季ゼミをオンラインで実施し、今回の飛騨大会の実践発表者に、今回のプレゼンを、次の美濃大会の引き継ぎをかねて、発表して頂く会とした。

次に示すのは、今後2年間の夏季ゼミの見通しである。

令和4年度 → 飛騨地区大会の発表の成果を確認する会

(県研究総括・飛騨大会実行委員・県領域部長・飛騨地区実践発表)

令和5年度 → 美濃大会に向けての準備会(美濃地区での研究の共通理解)

(美濃地区の市教研の指導案検討)

(美濃大会のもち方の検討・決定)

令和6年度 → 美濃大会に向けての指導案検討・実践発表検討

※令和4年度は県中国研が主催で、令和5、6年度は、美濃地区が主催として実施する。美濃大会の準備会を中国研夏季ゼミナールと兼ねる。

中国研 ホームページ（リニューアルと新 URL のお知らせ）

中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の4部会があります。

その部会が中心となって作成して頂いた、授業実践の指導案等を、本年度リニューアルした「中国研ホームページ」(<https://gifukokugo.com>) にアーカイブしております。

「中国研 ホームページ」にて、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。「明日の授業どうしよう?」とお困りの際や、ご指導の際の参考にして頂けますと、これ以上ない幸いです。図3のQRコードより、どうぞお入りください。

また、今後の会議資料も、このホームページ上にアップをし、情報共有・提供を行って参ります。



岐阜県国語

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

◆最新情報

New! 2023.03.29

以下のページに追加をしました。

◆授業資料 話すこと・聞くこと

図1：中国研ホームページ トップページ

一年一組 国語科学習指導案

日時 令和五年十月二十一日(土) 公開中
学年 一年 組 男子一四名 女子一四名
場所 彩の国 国語部会
指導者 川久保 智子

1 単元名 読み書きの基礎を築く
2 指導の目標
(1) 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
(2) 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
(3) 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。

【学習のねらい】
① 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
② 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
③ 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。

【学習のねらい】
① 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
② 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
③ 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。

【学習のねらい】
① 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
② 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。
③ 国語の「つづき」を、読者の感情に訴える文章の構成として理解する。

図2：ホームページで閲覧可能な指導案の一例



図3：中国研ホームページ

令和５年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月17日(水)	第1回 中国研役員会	※オンライン開催
6月7日(水)	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各部会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ※レジュメを参照 【研究部各部会の内容】 ①自己紹介 ②令和5年度の研究構想の共有 ③研究部の活動の方向の確認 ※可能であれば、美濃地区市教研の指導案検討 ※タイミングが合わなければ、後日部会ごとに日時を設定し実施（この会で大体の日時設定）	※オンライン開催
各部会で部長が設定・実施	美濃地区市教研（前期）の指導案検討	※移動の負担を鑑みて、オンラインで部会毎に実施
7月21日	第40回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長・主務者・情報部長が出席
8月18日(木) 統一研究日	「中国研夏季ゼミナール」（美濃地区主催） 内容 「令和6年度実施 美濃大会準備会」 【全体会】 ①会長あいさつ ②夏季ゼミナール開催の趣旨の説明 ③県中国研研究総括より、基調提案 ④美濃大会実行委員長あいさつ 【分科会（研究部）】 ①県領域部長研究構想の説明 ②研究に関する質疑応答 ③2回の市教研見通しの確認 R5年度10月及び R6年度6月の見通し及び可能な限りの指導案検討 【分科会（運営部）】 ①美濃大会に向けての現在の進捗状況の共有 ②大会のもち方の決定 ・日時 ・場所 ・もち方 (対面・ハイブリッド・オンライン) ・研究授業の有無 ・研究授業の参観の仕方等	※現段階では対面実施を考えているが、社会状況によって、オンライン開催かどうかを判断する。 ※この夏季ゼミナールは、令和6年度実施の美濃大会の準備会として、中国研本部役員と、美濃地区の国語科の先生方、県の研究部員で実施する。 ※主な内容は、 ① 研究の共通理解 (研究総括及び領域部長の提案) ② 美濃大会実践発表のもととなる2回の市教研（令和5年度10月と令和6年度6月）の見通しの確認及び、可能な限りの指導案検討 ③ 美濃大会の日時・場所・内容の検討と決定
各部会で部長が設定・実施	美濃地区市教研（10月期）の指導案検討	※移動の負担を鑑みて、オンラインで部会毎に実施
各部会で部長が集約（随時）	指導等の授業資料を主務者にメールで送付 その後、ホームページ委託業者に掲載を依頼	
1月25日(水) 役員会	第2回役員会 ☆令和5年度の活動の方向の確認 ☆ぎふこくご賞の審査	※対面・オンライン開催は未定
2月22日(水)	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各部会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ※詳細は、次ページの、本年度のものを参照 【研究部各部会の内容】 ①来年度の研究部員継続のお願い ②各部会ごとに美濃大会に向けての準備	※対面・オンライン開催は未定

□ー 絆を深める美濃大会 「組織の連携を強化した新しい県大会の在り方」の模索

昨年度の美濃地区準備委員会において、次のような意見が出された。

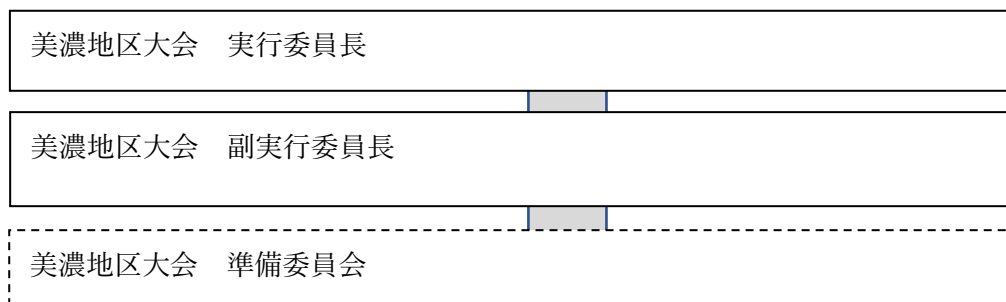
- ・各市町に市教研があるのだから、県大会をきっかけにして、市教研のレベルが上がり、市教研の実践の積み重ねを発表できるようなものであれば、県大会を地区ごとで行っていく意義があるのではないかと。市教研の実践の歩みを発表できるようなものにしてはどうか。
- ・美濃地区の市教研の情報を公開し、希望者がその授業を見に行くことができる仕組みを作るのも一案である。
- ・市教研をうまく活用し、その成果を県大会につなげて頂きたい。

こうした意見を踏まえ、来年度の美濃大会に向けて今年度から市教研を重要な実践の場、県や地区、市の連携の場として研究実践を重ねていきたい。しかしながら、美濃地区各校の担当領域は決まったものの、実践は各学校、それぞれの教諭に委ねている。また、県中国研、各領域の研究内容を踏まえた実践、美濃大会としての提案性のある実践などについては、これから取り組んでいくというのが現状である。したがって、(時間にも限りがあるので)美濃地区の研究体制の構築と市教研を活用した実践の推進、県(各領域)研究部との連携強化を同時並行で進めていきたい。

□ー市教研等の計画

関市		美濃市	郡上市
読むこと部会	言語文化部会	話す・聞く部会	書くこと部会
4月21日(金) 第1回市教研(計画)		5月2日(火) 第1回市教研(計画)	
5月17日(水) 県役員会 Web ※各研究部へ協力・連携依頼			
5月19日(金) 美濃大会準備委員会①			
6月 7日(水) 代議員会 研究総会 Web ※各領域部会に参加できないか?			
6月16日(金) 第2回市教研(教材研究 会場:桜ヶ丘中)	6月16日(金) 第2回市教研(教材研究 会場:緑ヶ丘中)	6月22日(木) 郡上第1回市教研(教材研究 会場:)	6月22日(木) 第1回市教研(教材研究 会場:)
7月 日() 美濃大会準備委員会②			
8月18日(金) 夏季ゼミナール 会場:			
		9月20日(水) 第3回市教研(授業研 昭和中 米徳教諭)	
10月31日(火) 第2回市教研(授業研 桜ヶ丘中 東海林教諭)	10月31日(火) 第2回市教研(授業研 緑ヶ丘中 辻教諭)	10月30日(月) 第2回市教研(授業研 授業者 未定)	10月30日(月) 第2回市教研(授業研 授業者 未定)
		11月21日(火) 郡上第3回市教研(授業? 未定)	11月21日(火) 第3回市教研(授業? 未定)

美濃大会 組織のイメージ



【美濃地区大会実行委員会】

- ・ 実行委員長
- ・ 実行副委員長
- ・ 運営部長
- ・ 研究部長
- ： 各部長

【運営部 運営部長（

【研究部 研究部長（ ）】

【話す・聞く 部会】（代表 藤村茂将）

顧問	今井 典生（頭）	明宝中
授業者		中
部員	米徳 琢人	昭和中
部員	市原 敬尚	昭和中
部員	西元 咲	美濃中
部員	羽賀 有那	美濃中
部員	原 英司	八幡中
部員	杜下 凌	八幡中
部員	西脇 祐子	八幡中
部員	高橋 雄太	大和中
部員	藤村 茂将	明宝中
部員	岩見 浩二（長）	美濃小

【書くこと 部会】（代表 日置さゆり）

顧問	山田 真司（長）	郡上東中
授業者		
部員	山内 芳人	八幡西中
部員	高橋 雅人	白鳥中
部員	上村 光一	白鳥中
部員	日置 さゆり	白鳥中
部員	小笠原 榛花	高鷲中
部員	上村 一貴	郡南中
部員	野村 美咲	郡上東中
部員	永井 伸幸（長）	高鷲中

【読むこと 部会】（代表 小林由佳）

顧問	松本 徳子（頭）	上之保小
授業者		中
部員	古川 寛之	旭ヶ丘中
部員	後藤 健太郎	旭ヶ丘中
部員	小林 由佳	桜ヶ丘中
部員	脇田 結	桜ヶ丘中
部員	恩田 美晴	桜ヶ丘中
部員	東海林 瞳	桜ヶ丘中
部員	古山 孝明	富野中
部員	永田 靖明	武芸川中
部員	石丸 高綱	武芸川中
部員	後藤 靖治	津保川中

【言語文化 部会】（代表 山本絵美）

顧問	澤田 通直（長）	下有知中
授業者		中
部員	山本 絵美	緑ヶ丘中
部員	羽田野 稜佑	緑ヶ丘中
部員	辻 宏紀	緑ヶ丘中
部員	半田 恵子	緑ヶ丘中
部員	小川 友也	緑ヶ丘中
部員	半田 啓之	下有知中
部員	松田 里江子	下有知中
部員	富村 恭子	小金田中
部員	今井 啓文	小金田中
部員	庄司 龍平	小金田中
部員	野村 一道	板取川中

中国研第1回役員会

令和5年度の方向性について

研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

中国研を「最強の教科部会」に

1. はじめに

令和元年度から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症への対策が、今年度一区切りを迎えました。学校現場においても、以前の生活が少しずつ戻りつつあるように感じます。思えば5年前、これまで自分が「当たり前」としていたことが、ことごとく排除されました。対面で話してはいけない、プリントを手渡ししてはいけない、周囲で話し合ってはいけない、等々。生徒同士のやり取りを積極的に授業に取り入れてきた自分としては、どうやって授業を進めたらいいんだろう？という不安を覚えたものでした。

しかし、その中で様々な工夫も生まれました。タブレット端末を活用した双方向型の授業は、これまでの言語活動の在り方を大きく変えました。また、「オンライン」という概念は、我々教員の研究の在り方にも一石を投じました。研究会があっても、開催地が遠方である故にあきらめざるを得なかったものが、自校に居ながらにして参加することができる。そんな空間の広がりには、岐阜県の国語科の研究の新たな可能性を示してくれました。コロナは真っ平だけど、得たものは案外大きいな。そんな気がします。

今年度から研究総括の任に就きました。私が願う中国研の姿は、以下の二つです。

1. 困った時に助けてくれる「国語のエクスパート集団」

どの学校でも、人不足は深刻です。本来なら教科部で相談していく単元構想、テスト制作、成績処理、そういったものを一人で取り組まなければならない状況は、珍しくありません。そんなとき、自分の相談に乗ってくれる「国語のエクスパートたち」がいたら、どんなに心強いことでしょうか。

2. 誰かや自分の「やってみたいこと」を実現するために、 とことん追求する集団

新しい単元をつくる時、研究授業をする時、生徒にもっと力を付けたいと思う時、自分は教科部会や様々な研究授業で学びました。自分の学校、地域だけではなく、岐阜県にはこんなにもたくさんの先生方がいる。その人たちが「国語について本気出して考えてみた」としたら、すごい授業ができるのではないのでしょうか。

以上のことから、自分が目指す中国研は「最強の教科部会」です。

これまで中国研が創り上げてきた研究のつながりを大切にしながら、新しい研究、新しい時代に対応した授業実践の在り方を模索していきたいと思います。よろしくお願いします。

- (1) 全体研究構想を受け、各部会で重点を決定し、実践を進めていく。
- (2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。※新単元構想表の活用

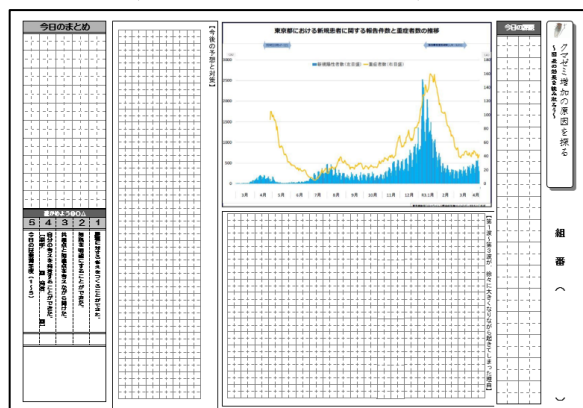
平成29年度の「第46回 全日本中学校国語教育研究協議会（岐阜大会）」、令和3年度10月に行われた「岐阜県中学校国語科研究部会 飛騨地区大会」を経て、各部会で成果と課題が明らかになってきています。新学習指導要領への全面移行（新しい評価）、新しい教科書となり、岐阜県内の中学校に勤務されている国語科の先生方は、「**具体的にどう授業し、生徒に『生きてはたらく言語能力を身に付けさせるのか？』**」「**具体的に、『何を』『どのように』評価するのか？**」ということを知りたいと思っています。これまでの実践の中で、具体的な方途は明らかになってきました。また、国立政策教育研究所から、令和元年6月に出された、「学習評価の在り方ハンドブック」に、概要や方法は明記されています。「**でも、実際に国語の授業はどうすれば…？**」というのが、先生方の本音だと思います。そこで、これまで同様の領域部長、研究部員を中心として、部会の重点に向かって実践を進める1年にしたいと思っています。詳細については、領域部長の先生から「令和5年度の方向」をご説明いただきます。

[illegible]

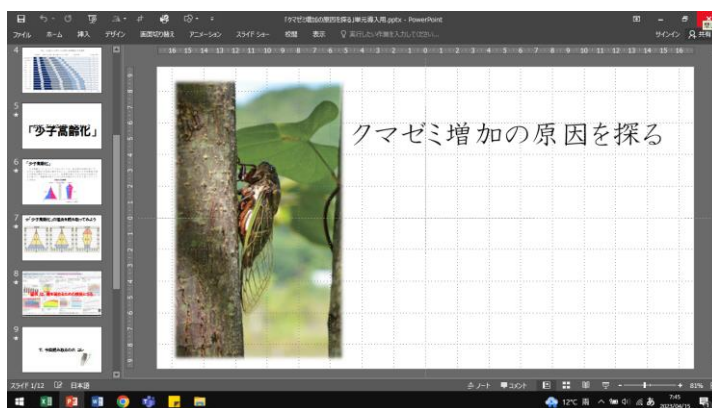
新単元構想表のメリットを挙げると、例えば以下の二つです。

- ① 形式が整っており、初めて単元構想図をつくる先生にも使いやすい。
- ② 指導事項、言語活動、評価が明らかなで単元の見通しがもちやすい。

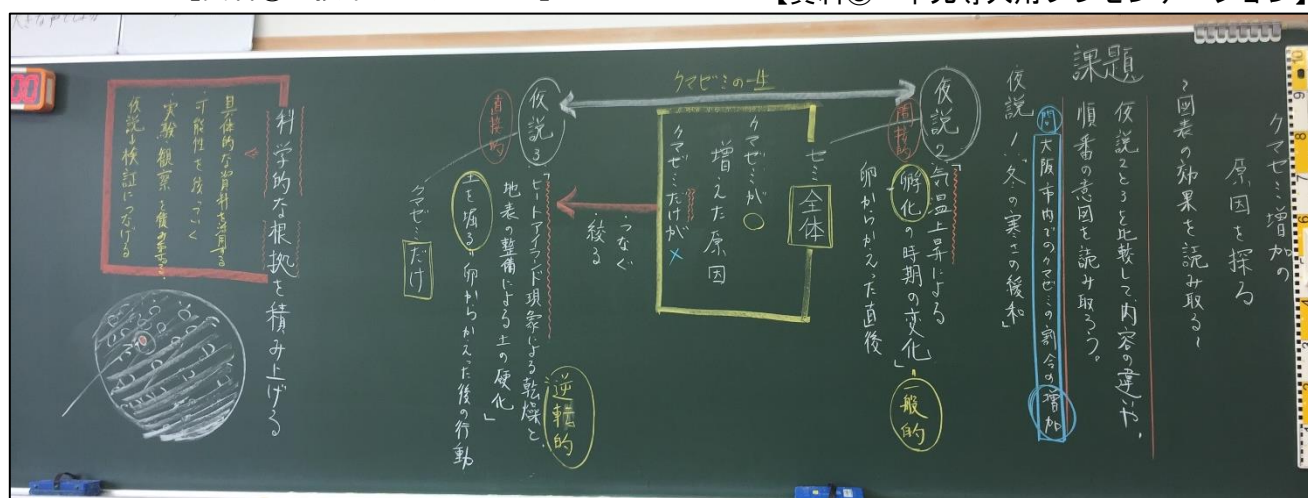
しかし、実際に授業をしようとしたとき、言語活動を伝える単元導入用のプレゼンテーションやワークシート、実際の評価の在り方、板書計画など様々な準備がいります。



【資料② 授業ワークシート】



【資料③ 単元導入用プレゼンテーション】



【資料④ 授業板書】

こういったものがワンパッケージになっていれば、ヒントを求めて中国研のHPを訪れる人たちにとって、「使えるもの」になるのではないのでしょうか。そのように誰もが使いやすい資料を広めていくことが、言葉だけではない「ALL岐阜」の体制をつくることに繋がると考えています。

働き方改革が叫ばれる今、新たなものを一から作るのではなく、昨年度作成した新単元構想表を用いて授業を行い、そこで使った資料を整理したり、評価の在り方を交流したりする。また、自分たちが普段使い、工夫している資料を共有する。それを全領域で行うことで、「作ってみた」新単元構想表を「使えるもの」にしていくことが、今年度の目標です。

【令和5年度 実践の流れ】

- ① 各部会の重点を踏まえ、研究部員が実践を行う。
 - ② 新単元構想表を活用し、実践をまとめる。
 - ③ 各部会で実践の内容を検討、修正する。
- ※1年間の学習内容を網羅的に分担して作成するのではなく、各研究部員が実践する単元を決定する。
- ④ 完成したものを年度末に「ぎふこくご」ホームページにアップする。
- ※ホームページにアップするのは、新単元構想表。別添資料として指導案や学習プリント、板書等をアップしてもよい。

(3) 「中国研ホームページ」への資料提供のお願い

次の美濃大会に向けて、研究部ができることは、「実践例を積み重ねながら指導法を工夫・改善し、深めていくこと」「再現性の高い実践を広めていくこと」ではないかと考えました。そのために、今年度も昨年度同様、各研究部で行った実践を是非ご提供頂き、ホームページにおける情報提供を推進していきます。

【閲覧の手順】

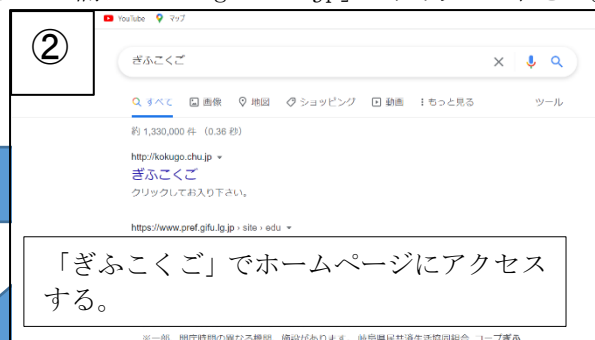
※キーワードが「ぎふこくご」で出ない場合は、アドレス欄に「kokugo.chu.jp」と入力して下さい。

①



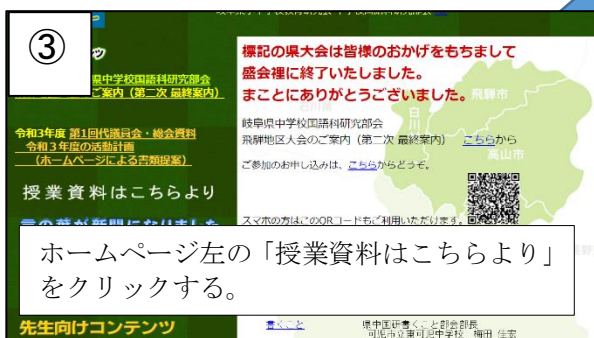
Web上のサーチエンジンで、「ぎふこくご」をキーワードに検索する。

②



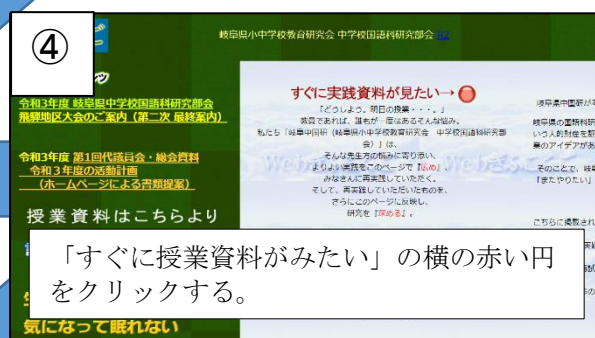
「ぎふこくご」でホームページにアクセスする。

③



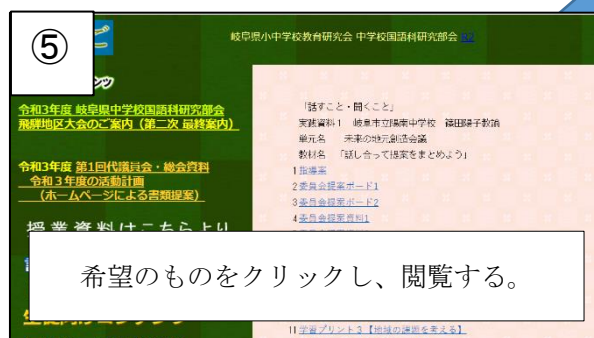
ホームページ左の「授業資料はこちらより」をクリックする。

④



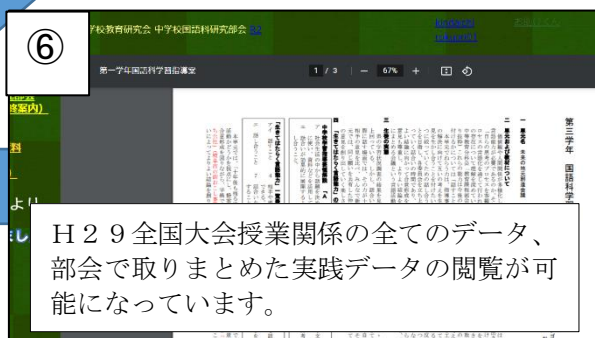
「すぐに実践資料が見たい」の横の赤い円をクリックする。

⑤



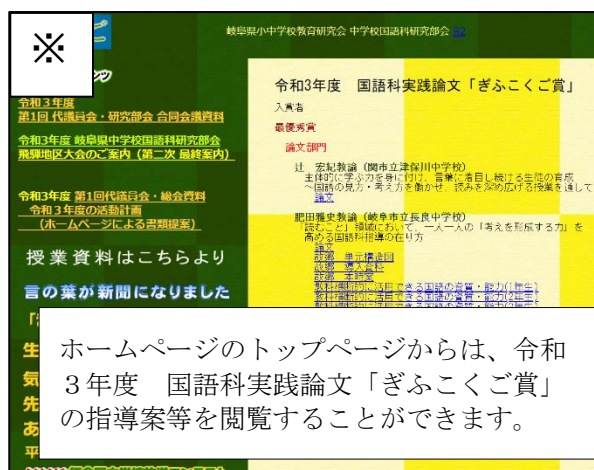
希望のものをクリックし、閲覧する。

⑥



H29 全国大会授業関係の全てのデータ、部会で取りまとめた実践データの閲覧が可能になっています。

※



ホームページのトップページからは、令和3年度 国語科実践論文「ぎふこくご賞」の指導案等を閲覧することができます。

⑦



飛騨大会の指導案、県中国研の全体研究構想、各領域の研究構想の閲覧が可能になっています。

令和5年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和4年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は70%となっており、全国の平均正答率（69.3%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、57.1%（全国平均61.9%）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、80.1%（全国平均81.2%）である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かうことができる生徒
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている生徒
- ・「分かる・できる」「前よりよかった」という実感をもち、学びに向かう力を高めることができる生徒

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよかった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

- (1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成
 - ・令和3年度全面実施の学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「この教材でこそ付けたい『生きてはたらく言語能力（指導事項）』とは何か」を明確にした上で、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表を作成する。
 - ・岐阜県内の国語科教員が「この指導計画なら、自分にもできそうだ」と思える再現性の高い単元構想表を作成する。
- (2) 生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発
 - ・「やりたい」「やらなければならない」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫
 - ・国語の授業で身に付けた力が、社会生活・他教科につながる力を育む言語活動を仕組むことができるようにする。

研究内容② 指導・援助の工夫

- (1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・講義式の学習だけでなく、「生徒相互」「教材との対話」等の「主体的・対話的な深い学び」になるために、どのような学習形態をとるとよいかを研究する。（対話の種類の研究）
 - ・交流する前の自分と、交流した後の自分とに変容があることが必要。その為、交流するのにも、どのような交流の仕方をするのか、その方法を研究する。また、ICT（タブレット端末等）についても、国語の授業における効果的な活用法について提案していく。（対話の方法の研究）
 - ・作文の授業を例にとると、「〇〇という方法で書きましょう」と教え込むのではなく、二つのモデル文を提示し、「どちらの作文に説得力がある？そればなぜか？」と問いかけ、その理由を発見するような学習のスタイルを目指す。また、そのために、どのような学習過程をとるとよいかを研究する。（課題解決の方途の研究）
- (2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）
 - ・評価規準に達することが難しいと考える生徒への「苦手を克服するための手立て」と、自力で評価規準に達するだろうと想定される生徒のための「得意を伸ばす手立て」を明確にするなど、生徒の一人一人の特性を捉えた上で手立てを考える。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫

- ・「分かるようになった」「できるようになった（読み取りの学習での考えの広がり、深まり等）」・「前よりよかった（作文、スピーチ等）」という実感をもつことができる場を工夫し、自己の高まりを自覚できるようにした上で、次時への意欲を喚起することで、「国語が楽しい」「国語は分かりやすい」「国語をまたやりたい」という生徒の思いを育む。
- ・「指導に生かす評価」「記録に残す評価」が明確に位置付いた評価計画を作成するとともに、評価の場を、単位時間や単元の終末にどのように設定し、実施していくかについて研究する。（指導と評価の一体化）

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

A 話すこと・聞くこと部会 令和5年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和5年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

（１）指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切にした指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

（２）指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

（３）評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、どのように日常生活や社会生活に生かされるのかを生徒と共有する。

B

書くこと部会

令和5年度の研究方向

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和5年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよかった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感を持ち、実生活に生かそうとする姿

令和5年度 「書くこと」部会 研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，

考えが伝わる文章を書く能力の育成

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫

①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫

①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

C 読むこと部会 令和5年度の研究の方向（案）

読むこと部会部長 大垣市立東中学校 山田優貴

【令和5年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和5年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

（１）指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

（２）指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

（３）評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的にする場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

言語文化部会 令和5年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

《言語文化部会として目指す生徒の姿》

- ・ 古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ・ 社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ・ 国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

《言語文化部会 研究主題》

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成
～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

《研究仮説》

- ・ 古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・ 語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

《研究内容》

『言葉への自覚』を高める」の定義

→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

① 指導計画の工夫

- (1) 多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・ 「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- (2) 語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・ 言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

② 指導援助の工夫

- (1) 古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・ 作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- (2) 「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・ 言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

③ 評価の工夫

- (1) 生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・ 形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

令和5年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

＜趣 旨＞ 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

＜観 点＞

- ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
- ・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

＜主 催＞ 岐阜県中学校国語科研究部会

＜募集領域＞ 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

＜募集部門＞ ○論文部門 ○ダイジェスト部門

＜応募資格＞ 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

＜形 式＞

- ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
- ・論文部門のページ数は自由。

ダイジェスト部門は指導案や資料＋A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

＜応募先＞ 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したものと**同じものでも結構です。**

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。

CDで送っていただくのも結構です。

＜応募締切＞ 令和6年1月12日（金）必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



(令和4年度)

収 支 決 算 書

部 会 名	岐阜県中学校国語研究部会	部会 No.	10
部会長 支部長	石橋 佳之	職印	印

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	287,060	282,100	282,100
補 助 金			0
雑 収 入	873	3	3
繰 越 金	252,067	252,067	252,067
計	540,000	534,170	534,170

(支出)

事業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当初予算	更正予算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費			0	0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費			0	0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	賃 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費	252,000	0	0	252,000	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費	6,000	312	0	6,000	312
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費		880	880	△ 880	0
	使用料及賃借料		275,000	275,000	△ 275,000	0
	分 担 金				0	0
	助 成 金				0	0
	積 立 金				0	0
	小 計	258,000	276,192	275,880	△ 17,880	312
図書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費	212,000	212,058	212,058	△ 58	0
	通 信 運 搬 費	70,000	45,920	45,920	24,080	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	282,000	257,978	257,978	24,022	0
総 計		540,000	534,170	533,858	6,142	312

(令和5年度)

予 算 書

部 会 名	岐阜県中学校国語研究会	部会 No.	10
部会長 支部長	石橋 佳之	職印	印

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	282,100 円	620円×455人
雑 収 入	587	
繰 越 金	313	
合 計	283,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
研究調査事業	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	小 計	0 円
	賃 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 × 回 = 0
	通 信 運 搬 費	1,000
	使用料及賃借料	30,000 円 × 日 = 0
図書	分 担 金	
	助 成 金	
研究成果刊行事業	積 立 金	
	小 計	31,000
	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
研究成果刊行事業	印 刷 製 本 費	212,000 400 円 × 530 部 = 212,000
	通 信 運 搬 費	40,000
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
	小 計	252,000
	合 計	283,000 円

令和5年5月10日

県内各中学校長 様
県内各義務教育学校長 様
県内各特別支援学校長 様

岐阜県小中学校教育研究会
中学校国語科研究部会
会 長 村田 伊津子

令和5年度 第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会について

新緑の候 貴台におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、本会の活動に御理解と御高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年度も、標記コンテストの事務を本会が担当し、別紙「令和5年度 第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定」に基づき実施することとなりました。

については、貴校の担当者に周知いただき、積極的な参加について御高配賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

大垣市立北中学校	和田光平
電 話	0584-78-3591
F A X	0584-78-3543

第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定

1 目 的

情報化社会に生きる中学生の、豊かな人間性の育成をめざし、中学校の特色ある教育活動の中核となる校内放送活動および放送教育の充実・発展をはかる。

2 ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 番組制作を通して、今後の校内放送活動の充実・発展をはかる。
- (3) 中学校生活の中に、うるおいを育み、教師と生徒の心のふれあいの場をつくる。

3 主 催

全国放送教育研究会連盟、NHK、(一財)NHKサービスセンター
岐阜県小中学校教育研究会中学校国語科研究部会

4 後 援

文部科学省

5 審査日

令和5年7月21日(金) [CD・DVD審査] —— 非公開

6 コンテストの各部門

- (1) アナウンス (2) 朗読 (3) ラジオ番組 (4) テレビ番組

参加の詳細については、各校に配布される「第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を参照のこと。なお、以下のアドレスに関連情報が掲載されている。

放送コンテストについて https://www.nhk-fdn.or.jp/kyoiku/ncon/ncon_j/pdf.html

参加規程について https://www.nhk-fdn.or.jp/kyoiku/ncon/ncon_j/pdf/40_kitei.pdf

(1) アナウンス部門について

〈課題〉中学校生活の中から素材を求めた内容とする。

ア. 原稿は生徒の自作とし、校内ニュースやニュース解説など、自校の校内放送用のもの。

(複数の生徒が同一原稿を読むことは認めない。)

イ. 楽曲の一部分を歌唱する場合など、著作権の処理が必要な場合は原稿制作者の責任において使用許可を得たうえで、使用許可を得ていることを証明するものを添付すること。

ウ. アナウンス本文は、20字×20行以内におさめる。

エ. 録音は、アナウンス本文の前に、都道府県名、名前を述べる。(録音時の編集不可)

オ. 原稿は、A4判様式1-1、様式1-2を使って書き、2部(コピー可)提出する。

カ. 提出CDは、アナウンス1名につき1枚とする。

キ. 提出CDは、CD-R(CD-DA形式[音楽CDと同じ形式]で録音)。

※音声ファイル(WAV、MP3、WMA、AAC等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(CDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

ク. CDのラベルは様式2に従って記入し、貼付する。

（２）朗読部門について

〈課題〉 次の指定作品のうち、１編をえらび、自分の表現したい部分を決め朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。翻訳作品は、必ず指定された訳者による本を使用すること。

《指定作品》

- ① 『坊っちゃん』 夏目漱石著（角川文庫）
- ② 『泣くな研修医』 中山祐次郎著（幻冬舎文庫）
- ③ 『ブロードキャスト』 湊かなえ著（角川文庫）
- ④ 『ものかんづめ』 さくらももこ著（集英社文庫）
- ⑤ 『ごきげんな裏階段』 佐藤多佳子著（新潮文庫）
- ⑥ 『トム・ソーヤーの冒険』 マーク・トウェイン著／柴田元幸訳（新潮文庫）

〈注 意〉 ※（ ）内の出版社に限る。

※①は 2004 年改版のものに限る。

※③④⑤は収録されている短編（作品）のいずれを選んでもよい。その際は選択した短編（作品）のタイトルを作品名として読むこと。

〈例〉 湊かなえ「ブロードキャスト」内の短編『ラジオドラマ』を選択する場合

○ 湊かなえ『ラジオドラマ』

× 湊かなえ「ブロードキャスト」『ラジオドラマ』

（３）ラジオ番組部門、（４）テレビ番組部門については全国大会の要項を参照し、参加すること。

7 表 彰

（１）各部門の１位を最優秀、２位を優秀賞、３位以下を優良賞または奨励賞とする。

各賞については審査内容により適宜変更する。例えば、最優秀賞に該当がないことなどもあり得る。

（２）全国大会への推薦は、全国大会の規定に基づき、その最大エントリー枠の中で行う。

（アナウンス部門 6 名、朗読部門 6 名、ラジオ番組 3 本、テレビ番組 3 本とする。）

（２）入賞作品には賞状および副賞を贈る。

（３）参加状況を考慮し、学校賞を贈る。

8 参加資格

（１）令和 5 年 8 月現在、以下の学校および各種学校に在学中の生徒であり、またその作品であること。

- ① 中学校および中等教育学校の前期課程および義務教育学校の後期課程
- ② 特別支援学校の各中学部
- ③ 各種学校（修業年限が中学校と一致していること）

（２）ラジオ番組・テレビ番組部門は、参加資格に該当する学校の生徒の創作、制作に限る。また、他のコンクールなどに参加した作品及び参加予定の作品の参加は認めない。

（３）アナウンス・朗読部門は、同一人が両部門にエントリーすることはできない。

（４）ラジオ番組・テレビ番組部門は、同じ学校から部門ごとに各 1 本までエントリーすることができる。

（５）コンテスト参加作品の著作権は、制作者（応募した学校）に帰属する。その他、全国大会の規定 1 ページの 8 「参加資格、エントリー」の（８）を参照し、これに従うこと。

9 参加申し込み

◎以下の手順で、参加申し込みを行う。

- (1) 参加を希望する学校は事前登録を行う。⇒⇒ 令和5年7月13日(木)までに
- ・参加を希望する学校は、別紙「岐阜県大会参加登録用紙」に必要事項を記入し、上記期日までに中国研情報部事務局担当者宛 F A Xにて送信する。
- (2) 参加校は、音源C D (テレビ番組部門においてはD V D) を作製し、中国研情報部担当者あて送付する。⇒⇒ 令和5年7月18日(火)必着
- ・このとき、原稿・台本(各2部)および録音・録画したC D・D V Dを送付すること。エントリーナンバーの欄は空欄とする(全国大会参加の場合に、岐阜県大会事務局で記入する)。
 - ・各様式等については、4月に各中学校に配付された「第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」の掲載様式を使用すること。
 - ・送付先(事務局)は以下の通り
〒503-0016 大垣市八島町2290番地
大垣市立北中学校 和田光平
電 話 0584-78-3591
F A X 0584-78-3543

10 全国コンテストへの参加

優れた作品については、全国大会の規定に基づき、岐阜県大会事務局が全国コンテストへエントリーを行う。(岐阜県大会【下記】への参加が全国大会参加の条件となるので、直接全国大会に申し込みをしないよう注意すること)

予選：2023年8月5日(土)、6日(日) ー非公開ー

決勝：2021年8月16日(水) ー公開

※決勝の審査会場ー千代田放送会館2Fホール(東京都千代田区)

該当する学校には、岐阜県コンテスト終了後に連絡する。

11 その他

各部門の課題及び参加上の注意については、上記「第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を熟読し、失格とならないよう注意すること。

第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加事前登録用紙

学校名	立 中学校
参加部門	【1】 アナウンス (名) 【2】 朗 読 (名) 【3】 ラジオ番組 (あり・なし) 【4】 テレビ番組 (あり・なし) ※上記【1】～【4】の()に必要事項を記入して下さい。 ※別紙「岐阜県大会参加規定」の8に留意してください。
担当者名	

F A X送信先	大垣市立北中学校 和田光平 宛
F A X番号	0 5 8 4－7 8－3 5 4 3

「ぎふこくご」No. 74 2024年2月 発行予定内容

◆《巻頭言葉》 会長 村田 伊津子

◆国語科教育への提言 岐阜県教育委員会 義務教育課 加藤 尚子 先生

※これまでの流れ

No. 73 . . .	岐阜県教育委員会 学校支援課	加藤 尚子 先生
No. 72 . . .	可茂教育事務所教育支援課	今井 則雄 先生
No. 71 . . .	なし	
No. 70 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	西門 純 先生
No. 69 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	富田 泰仁 先生
No. 68 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	山田 高秀 先生
No. 67 . . .	美濃教育事務所教育支援課	高橋 友之 先生
No. 66 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	藤根 隆 先生
No. 65 . . .	可茂教育事務所教育支援課	河合 広映 先生
No. 64 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	佐野 政紀 先生

◆令和5年度 各部会の歩み

- ・ 県中学校国語科研究部会の動き 主務者 小宅陽久
- ・ 研究部の歩み 研究総括 北原章大
- ・ 話すこと・聞くこと部会 部長 片山博寿
- ・ 書くこと部会 部長 梅田佳宏
- ・ 読むこと部会 部長 山田優貴
- ・ 言語文化部会 部長 河合のぞみ

※各研究部で考えていただいた研究の方向と指導案などをそのまま掲載できればと考えています。

◆令和4年度実践記録ぎふこくご賞（2名）の指導案

◆歴代のぎふこくご賞受賞者一覧

◆令和5年度県中国研役員、研究部員組織一覧

◆岐阜県中学校国語科研究部会会則

◆中学校教育研究会国語部会則

【広報部員】上條 亘

【印刷業者】昭和ぷりんと Tel 058-294-8781 nrj00751@nifty.com

【原稿送り先】〒509-2202

岐阜県下呂市森455-1 下呂市立下呂中学校 上條 亘

電子メール アドレス : main12gt0024@fcis.gero-j.ed.jp

※原稿は、ホームページにもアップしたいので、電子メールに添付をお願いします。

原稿依頼 11月初旬
 原稿締め切り 12月中旬
 原稿チェック 12月下旬
 原稿を業者に提出 12月下旬
 校正・原稿チェック 1月上旬
 製本 1月中旬
 配布準備 業者依頼
 配布 2月上旬 代議員会

【役割分担】

原稿依頼や業者との連絡等は
上條が行います。

原稿チェックに主務、研究総括
の先生方、お力をお貸し下さい。